

花の美しい演出の形態に関する研究

— 福岡市の都心部における花の演出の提案 —

藤原 正教 *Masanori FUJIWARA*
(財)福岡アジア都市研究所平成21年度市民研究員

要旨:福岡市が、益々厳しさを増す国際的な都市間競争の中で、アジアの交流拠点都市になるには、経済、先進技術、文化等の中心になることは基より、暮らしやすさとともに、これからは、都市として美しいことが不可欠な条件の一つとなろう。美しい都市を目指すには、広告規制、電線地中化等様々な要件があるが、有効な手段として「花」の活用も考えられる。花が美しい都市は、都市としても美しいと言える。だが、花は単に飾れば良いというものではなく、都市景観としての効果的な花の見せ方、演出の仕方というべきものがある。本研究は、海外、日本の各都市及び福岡市を対象に、様々な花の演出の形態を写真等により観察し、比較考察することによって、福岡市の都心部における美しい花の演出の仕方についての具体的な提案を行うものである。

■キーワード：花、都市景観、演出、形態、都心部、メインストリート、美しさ

1. はじめに

福岡市は美しい都市と言えるだろうか。シーサイドももちから臨む島々が浮かぶ海、海からの都市景観も美しい。又、油山の緑が目前に迫り、将に自然に恵まれた美しい都市とは言える。しかし、政令都市の中でも RC 造率の高い建物群で形成された市街地、大きな広告看板が目立ち、電線地中化は僅か、緑も不十分、街並みも決して美しいとは言えない。空の玄関である空港は、眼前に巨大広告が目につく。

それに比べ、ヨーロッパの都市は、なぜあんなにも美しいのか。統一された街並み、赤い屋根一色、無電中、目立たない広告看板、歴史的な美しい建築物等、どれもがその構成要素となっているのだろうが、手入れされた花の美しさが大きく寄与しているのは間違いないだろう。花が美しいのか、都市が美しいのか、と思わせるほど花の美しさが都市の美しさに大きな役割を果たしている。

花が美しい都市としては、全国的には、神戸市、

宮崎市、倉敷市、富山市、恵庭市、小布施町等が知られている。海外では、ベルギー、オランダ、イギリス、ドイツ、ニュージーランド、アメリカ等において花の美しい都市が数多く見られる。

だが、残念ながら福岡市は、花が美しい都市、花のまちづくりに積極的な都市とは言い難い。その中で、九州新幹線全線開通時にイベントとして行われた「福博花しるべ」は、花を都市の前面に登場させた意味で評価される。このイベントが一過性でなく、恒例化することを期待している。

では、福岡市が花の美しい都市を目指し、花のまちづくりを実現していくにはどうしたら良いだろうか。本研究は、その一つの方策として、市民は基より当市を訪れる人々に、美しい都市という印象を与える効果的な花の演出の仕方について提案するものである。その意味から、都市の顔としての都心部やメインストリート、市の陸、海、空の玄関である駅、港、空港等が主な対象である。このため、戸建て住宅地のオープンガーデン、都

心から離れた公園の大きな花壇、花の名所等には見事な花があるものの、今回は対象外としている。

2. 花の美しい演出形態の都市比較

2.1 都市景観に及ぼす花の効果

花が美しい都市景観の形成に及ぼす効果については、次のような考えに基づいて整理した。

花は、種類によって、また人の好き嫌いがあるものの、美しいものと言える。だが、同じ花でも、その花が数本か、群をなしているか、又、同じ数本でも、花瓶の中か、土に植えられているか、更に同じ花瓶でも、汚れた部屋か、ホテルのロビーか、置かれ方によって美しさが異なってくる。

一方、景観についても、同じ景観であっても、そこに花が加わることにより美しが増すことは多々ある。殺風景な景観を一輪の花が一変させたりもする。多くの場合、花は景観を向上させる方向に働くが、逆に、景観を壊す方向に働くものもある。どぎつい広告看板等がこれに該当する。

花はより美しい景観によってより美しく見え、景観は美しい花によってより美しい景観となる。即ち、花と景観は相乗効果の関係があると言えよう。これは、舞台に置かれた花に例えれば、花の背景を舞台装置、舞台全体を景観と見做し、花と景観とを共に美しく見せる花の演出として捉えることが出来る。

2.2 花の演出の形態のパターン化

花の演出の形態について表1のようにパターン分けをした。このパターンは、日本の都市の都心部を中心に歩きながら観察し、約1400枚の写真撮影して行く中で、こういう風にパターン化出来るのではないかの考えに至ったものである。パターンは次の考えに基づいている。

- ①都心部のメインストリート沿いの景観を主とする。例えば、公園、広場、河川等も都心部のメインストリートに面しているものに限定。
- ②大きくは、「演出の形態(花の置かれ方)」と「背景の形態(舞台装置)」の二つに分類。
- ③演出の形態は建物側(私的側)と道路側(公的側)に分ける。建物側が4つ、道路側が6つの計

10パターンに分類。

- ④背景の形態は、基本背景が5つ、損なう背景が5つの計10パターンに分類。

表1 花の演出の形態のパターン

A 演出の形態(花の置かれ方) 10パターン

土地	PN	花の置かれ方
建物側 (私的側)	1	ファサード周りに置かれたポット等
	2	建物に付設された花壇
	3	塀や庇からのハンギング
	4	2階以上のバルコニーのポット等
道路側 (公的側)	5	歩道に置かれたポット、プランター
	6	歩道上の花壇
	7	交差点、街角のスポット花壇
	8	車道中央分離帯の花壇
	9	通りに面した公園のポット、花壇
	10	橋、通りに面した水辺のポット等

B 背景の形態(舞台装置) 10パターン

背景	PN	舞台装置
基本の 背景	1	街路樹の下部(街路樹は除く)
	2	歩道上の花壇の低木、草木
	3	歩道の仕上げ、素材、デザイン等
	4	歩道の全体感・密度(すっきり感)
	5	建物ファサード周辺
損なう 背景	6	歩道上の電柱・街灯
	7	歩道上の安全標識
	8	歩道上の変圧器
	9	歩道上の自転車
	10	歩道上の旗、看板(建物看板は除く)

2.3 写真による演出の形態の都市比較

比較対象の都市は、海外についてはヨーロッパ、アジアの43都市、日本(福岡市を除く)については13都市を対象にした。海外については、現地で自ら撮影した5人の写真約2000枚を集めた。国内もその後追加し、その結果、全体で6人¹⁾の撮影者による約4000枚の中から選定し、表1のパターンにより整理し比較考察をした。この詳細については文献1「花のまちづくり」福岡「」を参照されたい。本文では、紙面の都合上その一部を次ページ以降で紹介する。

演出形態 1 ファサード周りに置かれたポット、プランター

通りに面した建物ファサード周りの演出は効果的で都市景観に大きく影響を与える。如何に人を迎えるかの工夫がみられ、豪華でなくとも、センスの良い建物のデザイン、ポットのデザインで

あれば、少しの余地でも効果があるものだ。福岡では、多くのホテルに流石と思わせる演出が見られる。



海外 オープンカフェの花は都市の風景



日本 憩いの場とした大きなポット



福岡 建物デザインにマッチしたポットと花

演出形態 2 建物に付設された花壇

花壇が、当初の建物設計の段階で位置付けられている場合は、建物デザインにマッチして美しい。海外の事例は豪華であるが、小規模であっても建

物デザインにマッチしていれば美しい演出が可能だ。通りに面した多くの商業・事務所等が屋外設計に花壇の演出を心掛けることを期待したい。



海外 シンボリックな豪華な大花壇



日本 建物と一体感のあるデザインの花壇



福岡 周辺に配慮した事務所の花壇

演出形態 3 塀や庇からのハンギング

ハンギングは設置方法や水遣り等に手間がかかることから、余程の花好きのオーナーに限られているようだ。この事例は極めて少なく、日本、福岡では探すのに苦労をしたほどだ。だが、景観

としては効果的であり、福岡のメインストリートに一箇所でも欲しい。この形態はプロの領域かも知れない



海外 街中レストランに彩りを添える



日本 地下街の工夫されたシャッター



福岡 オーナーの花好きとセンスが伺える

演出形態 4 2階以上のバルコニー・ベランダ等のプランター等

この形態は、都市景観として最も美しい演出だが、残念ながら海外と日本の最も大きな差異となっている。海外の建物全面に花を飾った景観は将に圧巻である。この形態は、当初から設計に取り入れる必要がある。日本の建物では殆ど見られな

いが、このレストランは設計に配慮された稀有な事例である。福岡では、河畔の連続した建物のベランダに花を飾れば、景観が一変すると思われる事例として挙げた。



海外 建物全体の花は都市景観として圧巻



日本 花の設計意図が伺えるレストラン



福岡 連続したベランダに花が欲しいものだ

演出形態 5 歩道に置かれたポット・プランター・ハンギング

海外、日本、福岡に共通して言えることは、ポットやプランターのデザインが洗練されていること、一定の区間連続して統一感をもって配置されていること、これが美しい都市景観としての必

要条件であろう。又、歩道の幅員を考慮することも大事だ。歩道が狭い場合は、置かない方が良い場合もある。



海外 広い歩道のボリューム感のある花壇



日本 木製のプランターのデザインが良い



福岡 市の中では最も洒落たプランター

演出形態 6 歩道上の花壇

歩道上の花壇は、道路幅員に併せて大きさやデザインを変えるべきである。また、花壇の縁石のデザインや、歩道の仕上げ、すっきり感なども演

出上の大きな要素になっている。狭い歩道では花壇が無い方が良い場合もある。また、花壇は一定の距離連続しての統一的な設置が効果的だ。



海外 広い歩道の豪華なチューリップの花壇



日本 縁石も無くすっきりした歩道の花壇



福岡 「福博花しるべ」のチューリップ

演出形態 7 交差点・街角のスポット花壇

交差点や街角のスポットは、その都市の中で最も人の目に触れる場所で、ここに花を飾れば印象深く効果的である。海外のロータリーの豪華花壇、神戸の花時計のような目立つ花壇を福岡の都心

の街角に演出したいものである。又、天神の心臓部の交差点の4つのコーナーは目立つ花で演出したい。



海外 人・車の多いロータリーの豪華花壇



日本 観光スポットにもなっている花時計



福岡 都心の心臓部の交差点に花が無く残念

演出形態 8 車道中央分離帯の花壇

都心の車道中央分離帯のある道路は、車の交通量も人通りも多く、花壇は殺風景な景観に潤いを与える。海外の広い分離帯の大きな花壇も見事だ

が、日本の狭い分離帯でも工夫次第で良い演出が可能である。福岡の交差点周りの分離帯はいつもきれいで、他の都市に比しても誇れるものだ。



海外 広い車道ならではの大きな花壇



日本 狭いが工夫されたユニークなデザイン



福岡 交差点周りのいつも整備された花壇

演出形態 9 通りに面した公園のプランター・花壇

都心部の公園や広場は貴重なスペースであり、ここの花壇こそは人の目を奪うほどの花壇でありたい。公園は手入れも良く、常時、花を楽しませ

せる場所として最も期待できるところだ。福岡の都心部には幾つかの公園、広場があるが、海外のように花を主役にした公園が一つぐらい欲しい。



海外 色の組み合わせが見事な大花壇



日本 札幌大通り公園のバラ園



福岡 都心の公園にこんなに美しい花壇が

演出形態 10 橋、通りに面した水辺のプランター・花壇

都心に川、運河等の水辺がある都市は少なく、都心の水辺は都市景観として貴重な財産だ。水辺を美しく整備し、そこに花を上手く演出すれば景観が一層引き立つ。又、水辺に建物を接しさせ、

花と組み合わせると更に美しい景観が創出される。福岡は都心に3本の河川があり、他の市に見られないものだ。河畔を、建物と花で演出すれば、福岡の個性的な都市景観が生まれる。



海外 水辺に面した建物の花はより映える



日本 小樽運河沿いの遊歩道のプランター



福岡 オープンカフェの社会実験の河畔

演出形態 特別枠: 創意工夫された演出

この事例は、演出が創意工夫され、又ユニークで参考になることから、演出形態1~10の何れにも分類せず特別枠とし挙げたものである。植木鉢を演出の主役にしたものや自転車を花で隠すカーテンは発想がユニークだ。噴水と花の組み合わせは、水遣りの対策の一つとして参考になる。

停留所の周りを花壇で囲む演出は、道路からの景観形成に効果があると思われる。沿道の家々に紫陽花が咲く坂道は写真以上に美しい通りであろう。オープンガーデンと路上の花が一体となった景観は見事に尽きる。この路上の花壇の維持管理は、面した各個人が行うとのことである。



海外 花でなく巨大な植木鉢を演出したもの



海外 自転車を隠す工夫をした花のカーテン



海外 彫刻と噴水と花のモニュメント



海外 停留所の周りを花壇が取り囲んでいる



海外 曲がりくねった坂道の沿道の紫陽花



海外 歩道上の花壇と一体となった景観形成



これくらいすっきりすると花も引き立つ



街路樹の下部を非常にすっきりとさせている



狭い歩道だがすっきり、変圧器も違和感なし

写真1 すっきりさせた背景



げばげばしい原色の仕上げ面は、要工夫



花の周りを自転車困む良く見られる景観



変圧器が当たり前のように花壇の中に

写真2 景観を損なう背景の代表例

2.4 背景の形態（舞台装置）

背景の形態として、表1-Bに基本の背景として5パターン、損なう背景として5パターン挙げたが、これの詳細については、文献2「花が美しい都市 FUKUOKA を目指せ～ツールとしての「花」の活用方策に関する研究を～」を参照されたい。本文では概略を述べる。

背景の第一は、全体的にすっきりしていることであり（写真1）、歩道の幅員が決め手となっている場合が多い。歩道が狭い場合は、ポットや花壇も無理に置かない方がよい。また、歩道上の低木や草木も手入れがされている場合はよいが、伸び放題は見苦しく却って景観の妨げにもなる。

景観を損なう背景は、1に歩道の仕上げ、2に自転車、3に変圧器である。特に、自転車が花の景観、即ち都市の景観をこわしている事例は実に多くの場所で見られる（写真2）。自転車は、天神のど真ん中に、違法駐輪のみならず、公設の駐輪場さえもが所狭しと置かれているのは、何とも残念である。変圧器は花壇の中に置かれるのが当

たり前のようにになっているが、色合いが悪くデザイン等に工夫の余地がありそうだ

2.5 評価と考察

これまで、海外及び日本の都市と福岡市を比較し考察してきたが、要点は次の6つに集約される。

(1) 通りの景観は、建物側（私的側）を主とし、それぞれが建物の用途・デザインに合わせ個人的に演出していくことが望ましい。

海外と日本の一番の違いは、海外は建物そのものに花の演出をしていることで、このことが都市景観上の最も大きな差異となっている。特に、目線の高い窓台やバルコニーに建物全面に渡って花を飾っている景観は圧巻と言えよう。これは、日本ではほとんど見かけない景観であるが、最も効果大きい。

福岡では、市役所が夏の期間、朝顔で建物を覆うが、夏だけでなく、常時、2階位だけでもベランダに花を飾れば相当効果があると思われる。又、明治通りの建物が、せめて2階の部分だけでも連続した花飾りが出来ないものか。

(2) 通りの景観は、道路側（公的側）を従とし、デザインに配慮した統一感のある演出で美しくなる。

道路側は幅員によって演出の形態を分けるべきであろう。海外は概して歩道や道路は狭く、余りポットや花壇は置かないが、広い場合は、思い切って豪華な花壇を設置している。

福岡では、狭い歩道の場合は何も置かない方がよい。また、歩道の幅員に合わせて、フラワーポットにするか、花壇にするかの判断をすべきと思う。狭い歩道で花が植えられていないような花壇は、撤去した方がすっきりすると思われる。

また、ポットや花壇を設置する場合は、一定の距離に連続して置くことが効果的である。これは、東京の銀座、日本橋、大手町に上手な演出が見られる。大博通りは幅員が比較的広いので、大きな花壇を設置すれば効果的と思われる。福岡市の人通りの多い道路に本格的なフラワーロードを1～2本設置して欲しいものだ。

(3) 交差点等のスポット花壇に力点を置き歩道全体のメリハリをつける。

海外では、ロータリーに立体的な大きな花壇の事例が見られるが、福岡でも、交差点等にスポット花壇を設置すれば効果的であろう。特に、人が多く集まる天神の交差点は4つのコーナーをセットで演出すべきと思う。交差点付近の中央分離帯の花壇が充実しているので、これと交差点のコーナーのスポット花壇を組み合わせれば、非常にインパクトが出てくると思われる。神戸三宮の駅前が参考になる。

歩道は面積的に限界があるので、交差点等のスポットをしっかりとした花壇にしていけば、メリハリが付き通り全体の印象も良くなる。

(4) 都心の中に花時計など観光スポットとなるような豪華な花壇を何箇所か設置する。

都心の中の公園や広場は貴重な空間であり、中央公園、警固公園、市役所前広場等は、観光客や市民が好んで訪れるような憩いの場であって欲しい。

また、歩道等では大きく豪華な花壇はスペース

的には無理であることから、こうした広い場所に海外や神戸などで見られるような、しっかりとした花壇を設置することが、福岡市が美しい都市だという印象に繋がる。「福博花しるべ」の時には、警固公園の花壇には撮影をしている人が見受けられた。

(5) 都心の川は福岡市の貴重な財産、河畔沿いを花で活かす。

都心のメインストリートに面した那珂川、博多川、薬院新川の3本の川は、福岡市の貴重な財産である。都心のど真ん中に川が流れる都市は珍しく、しかも、運河より少し大きめの身近に感じられる川である。

又、一部であるが河畔に美しく整備されたプロムナードもある。残念なことに殺風景であるが、ここに花を活用することによって、美しい水辺空間を創出できる可能性がある。

また、建物側が水辺に向かって積極的にオープンにしていけば、福岡の個性としての都市景観が生まれるであろう。オープンカフェの社会実験などはその一つである。

(6) 花の演出は全体の景観デザインの中で発揮される。

花を都市景観に活かすには、建物ファサード、歩道の仕上げ、歩道上の自転車、変圧器、看板など、背景を含めた全体的なデザインをすることが肝要である。また、全体のデザインに際しては、テーマ性をもった統一性が重要である。

色々述べてきたが、花の演出を都心部全体でデザインすることが、どうしても必要であり、そのための計画（ビジョン）を策定し、それを基に、実現に向けていく努力が期待される。

3. 福岡市における花の演出

3.1 都市戦略としての花の効果的な導入場所

花の美しい福岡市を目指すには、本来は市域全体に渡って花が見られるのが望ましい。現に、小学校を核として学校、子供、父兄等と一緒にあって、花の推進活動に取り組んでいる地域も一部で

あるが見られる。こうした地道な活動は時間がかかっても徐々に広がっていくことが何よりも望まれる。

ただ、福岡市は余りにも広いことから、一方で、花の美しい都市を演出するための効果的な都市戦略も必要である。基本的には、人が多く集まる場所、県外や外国からの来訪者が訪れるところに、重点的に花を導入していくことである。

人が多く集まる場所、県外や外国からの来訪者が訪れる場所、という基本的な考えに基づき、定性的ではあるが、業務、商業等の経済活動や交通、観光面等の実態から、次の6つの基準に該当する場所を効果的な導入場所として選定した。結

果的には、F. 先導的計画的な開発地区を除けば、都心区である中央区、博多区に集中している。

<選定の基準>

- A. 市の玄関である駅、空港、港
- B. 代表的な公共施設
- C. 商業・業務の中心地
- D. 代表的な観光スポット、公園
- E. 幹線道路
- F. 先導的計画的な開発地区
- G. 都心の河畔、水辺

この基準によって選定した場所を表2に示す。

表2 都市戦略としての効果的な花の導入場所

基準	具体的な場所	基準	具体的な場所	
A. 市の玄関	A1. 福岡空港（国内線、国際線）	E. 幹線道路	D9. 長浜公園	
	A2. 博多駅周辺（博多口、筑紫口）		D10. 清流公園	
	A3. 博多港国際ターミナル		E1. 那の津通り（都心部）	
B. 代表的な公共施設	B1. 国際会議場周辺	F. 先導的計画的開発地区	E2. 昭和通り（都心部）	
	B2. 県庁周辺		E3. 明治通り（都心部）	
	B3. 市役所周辺		E4. 国体道路（都心部・けやき通り）	
C. 商業・業務の中心地	C1. 天神地区		E5. はかた駅前通り（都心部）	
	C2. 博多駅周辺地区		E6. 大博通り（博多駅～サンパレス）	
D. 代表的な観光スポット公園	D1. キャナルシティ		G. 都心の河畔	E7. 住吉通り（博多駅～渡辺通り）
	D2. 舞鶴公園			E8. 渡辺通り（都心部）
	D3. 大濠公園		F1. シーサイドももち	
	D4. 天神中央公園	F2. アイランドシティ		
	D5. 警固公園	G1. 那珂川（中洲、明治通り近辺）		
	D6. 冷泉公園	G2. 博多川（中洲、明治通り近辺）		
	D7. 水上公園	G3. 黒門川		
	D8. 須崎公園			

（「花のまちづくり“福岡”」（財）福岡アジア都市研究所 3章表1を基に作成）

3.2 都心部における花の演出の提案

3.1で、花の美しい都市を演出するための効果的な花の導入場所の検討を行ったが、これは、中長期的な計画が必要で時間もかかるであろう。

そこで、第一段階として、前述の他都市との比

較考察の中で指摘した(1)～(6)の事項を都心部や駅、空港等において、先行的に実現していくことを提案したい。

都心部や駅、空港等は、福岡市のイメージアップに格段に効果が大きいと判断される演出の場

所である。

具体的な演出の提案を次の①～⑦に示す。①～⑦は図1の図上の番号とも整合しているので参照されたい。

①博多駅～天神を結ぶ本格的なフラワーロードを設置する。ルートは、イベント「福博花しるべ」的那珂川河畔を通るAルートと、博多川河畔を通るBルートの2本のルートを設置する。

②メインストリートである明治通り、渡辺通りの一定区間について、交差点等のスポットを中心に充実した花壇を重点的に配置する。又、この通りは建物側に花の演出を誘導していく。

③都心部に、外来者等の観光スポットとなるような花時計を、天神中央公園に設置する。アクロスの屋上緑化と公園の花時計をセットで見せる。

④陸の玄関である博多駅の博多口については、駅正面にあたる大博通り、駅前通り、住吉通りの交差点付近に充実したスポット花壇を整備する。又、筑紫口についても駅広や駅周辺の歩道に、ポットや花壇で演出する。

⑤空の玄関である空港の正面の立体駐車場の屋上フェンスに、ハンギングによる演出を行う。

⑥大博通り、住吉通りの二つの幹線道路を、市民とともに花づくりをしていくモデルとして位置づける。

⑦博多川沿いの建物が立ち並ぶ川端側の河畔を、フェンスのハンギングや、建物のベランダに花を連続的に飾るなどの演出によって、個性的な水辺の景観を創出する。



図1 都心部における花の演出の提案

(出所 「花のまちづくり“福岡”」(財)福岡アジア都市研究所)

4. おわりに

この研究は、福岡市が花の美しい都市を目指し、花のまちづくりを進めていくことを期待し、その方策の一つとして、如何に花を美しくみせるかという形態面からの考察と提案を行ったものである。

しかしながら、花は、手間がかかり、人手を要し、費用を要するもので、如何に育て維持管理していくかが、最も大きな問題であり、それに応える仕組みが早急に出来る必要がある。

花のまちづくりは容易なことではなく、宮崎、神戸、富山、倉敷等の花のまちづくりの先進都市といわれる都市でさえ、課題が多い。では、福岡市はどうやって実現を目指していくべきなのか。本研究で行った提案の実現の道筋はどうか、その道筋について2点述べたい。

(1) 花のビジョンの策定

福岡市は、平成21年5月に「福岡市 新緑の基本計画」を策定している。この場合の「緑」は、「花」を包含しており、認識上も実行上もそのように取り扱われているが、緑は緑、花は花として計画すべきと考える。花のまちづくりを推進していく上では、緑とは別に、花についてのビジョンを策定し、しっかりと位置づけていくことが肝要である。当然、花は緑との整合性は図られる。

この花のビジョンでは、都市計画的に計画するもの（メインストリート、都心部、空港、駅、港、河畔、幹線道路、公共施設、観光スポット等）と、地域的に計画するもの（小学校区を単位とした地域、郊外の住宅地等）の二つに大きく分けられ、それぞれが有機的に連携しつつ並行して進むことが望ましい。

この花のビジョンは、福岡市がアジアの交流拠点都市として、国際的な都市間競争に勝ち残っていくために美しい都市を目指す、又、観光都市としての魅力を増す、そのための花のまちづくりであることを念頭に置き、都市戦略として計画されるべきものとする。

(2) 福博花のまちづくり推進協議会の設置

先ずは、前述の花のビジョンで位置づけること

であるが、行政と民とのパートナーシップと言ったところで、実際に動くのは人であり、簡単ではない。多くの作業が互いに関連し、全体的に有機的に廻っていくような仕組みがどうしても必要である。

そこで、花のビジョンに関連する行政（市、区）、市民団体、企業、学校、造園デザイナー、生産者、観光関係者等で構成する推進協議会を設置し、この機関にエンジンの役割を持たせることである。資金の調達もこの組織が担う。問題の事務局は、市と民間の協働で、全体のコーディネートを行う。この組織は、福岡の都心部が対象であることを明確にするために「福博花のまちづくり協議会」という名称にした。

現在、福岡市の都市緑化推進事業は、市が、施策の方針策定・企画検討を行い、福岡市緑のまちづくり協会が、緑化助成、市民活動支援、普及啓発等を行う役割分担の基に、双方が協力して推進している。

これに対し、「福博花のまちづくり協議会」は都心部等に限定した花のまちづくりを進める民間主体の実行機関としての役割を担い、市、協会、協議会の3者が、一体的に連携していくことが肝要である。

注釈

1) 写真の撮影者

<海外の写真>

樗木 武 梶返 泰彦 田村 一軌

藤原 正教 山下 永子

<日本の写真>

梶返 泰彦 藤原 正教 田梅 朋子

参考文献

(1) (財)福岡アジア都市研究所 花のまちづくり研究会著

樗木 武 久保山安利 藤原 正教

梶返 恭彦

田村 一軌 合庭 昭男 田梅 朋子

(財)福岡アジア都市研究所 2011

- (2) 藤原 正教：(財)福岡アジア都市研究所 21年度市民
研究員報告「人と自然が共生する美しい都市」 個別研
究報告 49P～ (財)福岡アジア都市研究所 2010
- (3) メインストリートの花の美しい演出の形態 写真集
(財)福岡アジア都市研究所 2010